

活動展開例

6 どうしてユニセフ募金？—インターネットで調べてみよう

STEP-1 問題提起：“いったい何のために募金するんだろう？”

- 学校で定期的に行われるユニセフ募金活動をきっかけに、標記の質問に対する答えについてグループディスカッションなどを行う。
- グループディスカッションの中で出てきた意見の中から、さらに追究していけるように細かな問題提起を行っていく。例えば、「困っている子どもたちを救うため」であったら、どのような困っている子どもたちがいるのだろうか？、「自己満足のため」であったら、どうして募金が自己満足につながるのだろうか？といったように。

STEP-2 調べる

- さまざまな問題提起の中から、個人または全体で追究すべきテーマを選び、インターネットからそれを調べてみる。
- 例えば、紛争に巻き込まれている子どもたちをテーマに、ユニセフ協会のホームページ (<http://www.unicef.or.jp>) を検索する。その中から、世界の子どもたちを取りあげたストーリーがたくさん掲載されているページ（「世界の子どもたちは今」「ユニセフ子ども物語」など）を読み、もっとも印象に残ったページをプリントアウトする。同じページをプリントアウトしたり、同じテーマを選んだ児童・生徒同士でグループをつくり、各情報の背景についてより詳しく調べて意見交換する。



※作成中のためホームページのデザインは変更になることがあります。

STEP-3 グループでの話し合い、発表

- 各自、各グループで調べたことを全体に発表する。
- さらに関連のホームページを調べたり、調べた資料館や関連施設、関係者を訪問して、インタビューを行うなどの活動に発展させる。

ひとことメモ

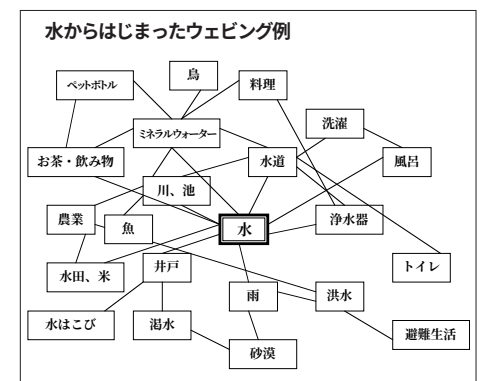
インターネット活用術

近年、学校でのインターネット活用が広がっています。日本ユニセフ協会のホームページからいろいろなことが調べられますが、特定の国やテーマを深く調べたいといった場合には、さまざまなページの検索が必要になります。ここで大切になるのが、インターネット上の膨大な情報からどのように必要な情報を見つけるか、ということです。

検索力を身につけよう—キーワードを見つける力

検索する際に必要になるのが、キーワードです。活動のテーマについて事前に自由に意見を出し合っ、テーマに関するさまざまな「言葉」を見つけておくと、多方面からの検索が可能になります。テーマから派生する言葉を見つけるには、ウェビングと呼ばれる手法などが有効です。

＊ウェビング：ひとつの言葉からイメージする言葉をクモの巣状にかきだしていく方法。グループで行うと、多様な言葉が得られる。

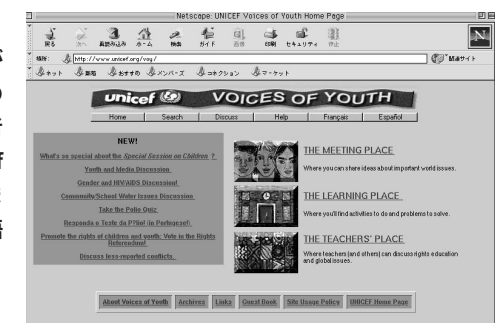


リンクリストを活用しよう

ホームページの多くには、その機関と関連のあるさまざまなホームページとリンクがはられています。そうしたリンクリストからネットサーフィンしてみることも効果的な方法です。

コミュニケーションツールとして活用しよう

ホームページの中には、アクセスした人同士が意見交換をしたり、質問を書き込めたりするものもあります。ユニセフ本部にも子どもたちや若者が、学んだり、意見を交換できる "Voices of Youth" (<http://www.unicef.org/voyn>) があります。（使用言語は英語、フランス語、スペイン語です。）



活動展開例

7 消えゆく世界の森—ユニセフのアクティビティを利用しながら考えよう

この項では、各段階でアクティビティを利用しています。アクティビティ活用は、クラスの全員が参加しながら課題探求するひとつの手法です。各アクティビティの詳細については『ユニセフの開発のための教育』をご参照ください。

STEP-1 提起：“わたしたちの身近にある「世界の森」をさがしてみよう”

アクティビティ これはどこからきたの？（『ユニセフの開発のための教育』P27）

身近にある木材を原料とした製品をさがし、どこからきたのかを調べて世界地図上に書き込んでみる。

アクティビティ どんな種類のニュース？（『ユニセフの開発のための教育』P38～39）

最初のアクティビティであがった国に関する記事を新聞から集め、それらの国の森林の状況を含めた情報収集をする。また、記事から見えてくるそれらの国に対するイメージを話し合う。

STEP-2 森林のもつ機能や役割について調べよう

アクティビティ 生命のあみ（『ユニセフの開発のための教育』P13～16）

森の生態系について、カードゲームをしながら生き物や植物のつながりをあらわす。

やり方

参加者は円陣を組んで座り、ひとりに1枚「生き物カード」が配られる。「生き物カード」には、森林の中で生きる生き物についての記述がある。ひとりひとりが自分のカードを読み上げながら、その生き物と関係のある「生き物カード」を持っている人と色ひもで腰と腰をつなぎあっていく。すべてのカードが終わったところには円陣の中には複雑に絡まりあった網ができあがっている。



- 森林の現状について個別追究を行う。

テーマ例 森林のもつ機能（環境への貢献）、森林破壊の背景、日本が多くの木材を輸入している背景、開発途上国における森林資源の役割（燃料としての利用、現金収入のみち、子どもの薪拾い労働…）

STEP-3 自分たちにできることを考えよう

アクティビティ 働く力の分析（『ユニセフの開発のための教育』P87～88）

破壊されてゆく森林や環境を守るために、自分たちに何ができるか、を分析する。

やり方

大きなテーマに対して、自分たちができそうなことを挙げ、「できそうな度合い」を示していく。一番「できそうな度合い」が高いものを次のテーマにして、同じ活動を繰り返し、できることを身近なところまで近づけてゆく。

- 出てきた意見をもとに実践活動を行う。

（例）地球環境を守るために	
（できそうな度合い）	（自分たちにできること）
⑤	① 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	② 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	③ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	④ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	⑤ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	⑥ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	⑦ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	⑧ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	⑨ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤	⑩ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。

以下同様、⑤まで書く

（例）使う紙の量を減らす	
（できそうな度合い）	（自分たちにできること）
⑤	① 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	② 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	③ 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	④ 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	⑤ 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	⑥ 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	⑦ 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	⑧ 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	⑨ 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤	⑩ 紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。

以下同様、⑤まで書く

活用! アクティビティ

アクティビティ実践の特徴は、正解や結論がひとつではない、ということです。多様な意見が出されるように促すことで、その後の発展性がうまれてきます。各活動を終えたあと、どのようなことに気づき、どのようなことを感じ、考えたか、ということについてじっくり振り返りの時間をもつことが大切です。

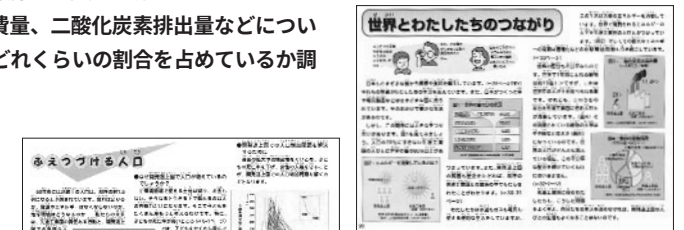
活動展開例

8 急速に人口増加する世界—さまざまな要因が絡まり合う問題について考えてみよう

STEP-1 問題提起：“この世界に人はどれくらいいるの？”

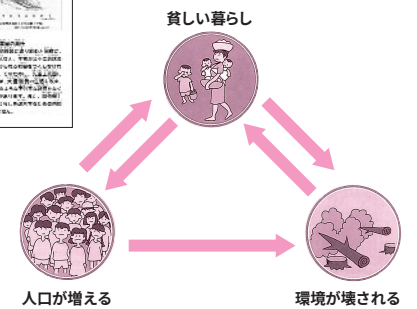
- 「人口」を調べる。…『世界子供白書』『国勢図絵』などの統計資料から
 - ・自分たちの住む市町村、都道府県、日本、世界の人口を調べてみる
 - ・人口の多い国、人口増加率が3%以上の国をそれぞれ世界地図上で示してみる
 - ・何ヶ国かサンプルを選んで、各国の各年齢別人口構成を調べてみる
- 世界の人口、エネルギー消費量、穀物消費量、二酸化炭素排出量などについて、開発途上国と先進工業国でそれぞれどれくらいの割合を占めているか調べてみる。

- 調べてわかったことを話し合う。



STEP-2 人口増加がもたらす危機について考える

- 「貧困」と「人口増加」と「環境破壊」の悪循環について考え、実際にどのような問題が発生しているか、個別に調べてみる。
- 人口増加の要因について人口増加率の高い国を選んでその国の状況（女性や子どもに焦点ををぼると新しい発見がある）を調べてみる。
- 調べたことを発表し、人口増加がもたらす危機とその要因についてまとめる。

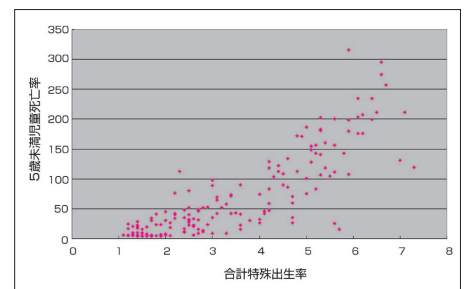


ひとことメモ

データが示す人口増加の要因

乳幼児死亡率が高いことと人口増加率が高いことは密接な関係があります。『世界子供白書』のデータをもとにして、以下のようなグラフをつくってみましょう。5歳未満死亡率が低いほど、合計特殊出生率（ひとりの女性が一生に産む子どもの数）も低くなっていく傾向がわかります。つまり、子どもの死亡率を下げるのが人口抑制にもつながるのです。

また女性の識字率と乳幼児死亡率や人口増加率などの相関関係を調べても興味深いことがわかります。



STEP-3 人口抑制策と自分たちにできることを考える

- 開発途上国における人口抑制政策などを調べる。
- エネルギーや穀物消費量の地域的不均衡から、先進工業国の人びと（わたしたち）の暮らし方について考える。
- 人口問題を切り口にユニセフやその他の機関の活動がどのような効果をもたらすかその意義を考える。

活動展開例

9 共に生きる世界—ユニセフを通じて平和や人権について考えよう

実践事例

小田原市立橘中学校(神奈川)では、共生をテーマに、ユニセフを活用して段階を踏まえた活動を実施しました。

STEP-1 知る：単元「ユニセフの活動について知ろう！」

生徒の手によるユニセフ勉強会の実施

ユニセフ活動に目を向けることは世界平和について知る手だてのひとつである。まず知ること、何ができるか考えること、できることから行動することというステップを考えた。

まず、生徒会本部役員を中心としてインターネットでユニセフのホームページを検索し、その資料を読み、何を伝えたいかを討議した。伝えたい内容を生徒自身が資料として作成し、各学級委員が集まる評議委員会で伝え、評議委員会での勉強会を終えた学級委員が各学級で勉強したことを伝えるという段階を踏んだ。ここでは、学んだ子ども自身が情報の発信者となる。受動的な立場から能動的な立場への変化が、考える段階へのステップとなった。

○新学習指導要領による学校での目標

- ・豊かな人間性や社会性を身につけ、国際社会、21世紀に生きる力をつけよう。
- ・自ら学び、自ら考える力をつけよう。また、話し合う力をつけよう。
- ・生徒会によるユニセフ活動について理解を深めよう。

○生徒会活動としてのユニセフ活動の展開

6月中旬

生徒会本部による
ユニセフ勉強会



6月下旬

生徒会本部による
学習資料の作成



7月上旬

評議委員会(学級委員会)
によるユニセフ勉強会



7月中旬

学級でのユニセフ勉強会
(学級委員を中心としたクラス
勉強会)



みんなの声から

ユニセフ勉強会を終えて

- ・みんな静かに聞いてくれた。ユニセフのことがわかったみたいで意見を出してくれた。(1年)
- ・みんなそれぞれ考えてくれた。ユニセフについて知らなかったことをいろいろ教えてくれてユニセフの大切さがわかった。(2年)
- ・みんなの意識が変わったと思う。自分でできることを考えるようになった。(3年)

4 ユニセフを活用した活動展開例

○学級でのユニセフ勉強会展開例

	生徒の学習活動	教師の働きかけ・支援
知る	「ユニセフ」ってなあに？ ユニセフについて知っていることを挙げてみる。 ユニセフの活動について説明する。 ○×クイズを試してみる。	学級委員を中心にクラス勉強会であることを知らせる。 学級委員はユニセフについて評議委員会で勉強していることを知らせ、資料を配る。
考える	「ユニセフ」についてわかったこと・考えたこと ユニセフについて知ったこと、わかったことについて意見を出す。 考えたことを発表する。	意見が出るように支援する。 班ごとに話し合ってもよい。
行動する	今、わたしたちにできること わたしたちにできることをまとめる。 感想文をまとめる。	学級の意見としてまとめられる。 (ユニセフ活動について) 知るということ自体、すでに行動している、というまとめの方向も可。

STEP-2 考える：単元「人権について一緒に考えよう」

生徒の手によるパネルディスカッション

世界には子どもの権利、基本的な人権としての「生きる権利」さえ奪われている子どもたちがいる。そうした現実を共に考えることを目的として、全校集会を持った。生徒会本部役員は事前にビデオによる学習会を行い、ビデオを題材にパネルディスカッション形式で意見を述べることにした。

○新学習指導要領による学校での活動内容

- ・生徒の教養や情操の向上のための活動
- ・好ましい人間関係を深めるための活動
- ・社会参加等に関する活動

○活動計画

10月下旬	生徒会本部	ビデオを鑑賞し、人権の問題について学習する。
11月上旬	生徒会本部	生徒集会の準備、進行の細案づくり
11月中旬	本部役員会 パネラー	パネルディスカッションの準備 パネラーの準備、意見会の準備
11月下旬	生徒会本部 学級の時間	生徒会機関誌による生徒集会の案内 ビデオの内容と「子どもの権利条約」について
11月末	生徒集会(45分) 学級の時間(20分)	ビデオシンポジウム 生徒集会の感想をまとめる。

みんなの声から

パネルディスカッションを終えて

- ・徹底して人権を擁護したAさんに賛成。次の世代を生きる子どもたちを殺したり、痛めつけたりしないでほしい。
- ・おとなたちが守られるべき子どもたちを虐待したり、殺したりするのは許されないことだと思います。しかし、犯罪を防止する意見のBさんのような意見を聞くと、確かに少年犯罪は増えているので甘やかしていいのかは難しい問題だと思いました。



STEP-3 行動する：単元「できることから始めよう」

人権について考えてもらいたい、という願いから生徒会本部役員による人権の啓発劇をつくり、学習発表会で演じた。

また、生徒会本部役員と有志ボランティアによるユニセフ募金を全校で実施した。

活動展開例

10 違うから素晴らしい—多様なもの・考え方・人の共生を考えよう

STEP-1 問題提起：“違うものを見つけよう”

- さまざまな「違い」について導入する。
例) 世界の人びとの暮らしや文化の違いについて、ユニセフのビデオを視聴など
- 「違い」について調べたい課題を出し合い、その中から自分の追究課題、何をどのように調べるかを考え、決める。(どのような違いがあるか、違いがもたらすものなど)
課題例) いろいろな国の言葉・学校・料理・遊び・職業・はやっているもの・服装、戦争と平和、男の子と女の子、宗教、人種、民族、政治経済の仕組み、歴史、自分と他の人、障害の有無、社会的地位、財産

STEP-2 「違い」がもたらすものについて考える

- 各自の研究発表を行い、「違い」についてのさまざまな意見を聞く。
- 違うことが素晴らしい結果を生み出しているケースや、「違い」のために問題や争いが起きているケースを選び出して、それらの背景についてさらに個別に追究する。
- 「差別」について考える。

STEP-3 「違い」と共に生きる世界をつくろう

- 各自の研究発表を行う。
- 発表を基に「違い」と共に生きる世界、「違い」をプラスにしていける世界とはどのようなものか、グループで意見を出し合って、表現する。
- 身近なところで「違い」のために起こっている問題があれば、解決の方法を考え実施する。離れた世界で起こっている問題については、自分たちでできることを考え、実施する。

活用! アクティビティ

意見や考え方の違いが生まれる背景のひとつにある“情報の受け取り方”について、以下のようなアクティビティが活用できます。

2つの報道

(『ユニセフの開発のための教育』P40～41)

1. ひとつのできごとについて、異なる視点から書かれた記事を読み、それらが与える印象の違いや、自分の考えがどうなったか、について話し合う。
2. あるできごとをテーマに、異なるふたつの視点からそれぞれ記事を書いてみて、照らし合わせ、気付いたこと、考えたことを話し合う。

ひとことメモ

ジェンダーも多様性を考えるテーマのひとつです

ユニセフの主要な活動のひとつに女性への支援があります。世界には女性の就学率や識字率、女の子の出生率などが極端に低い国や地域があります。このような統計は女性への差別が根強く残っていることを示しており、それが子どもの発達にも深刻な影響を与えています。ユニセフの資料には、女性の直面している問題とその影響について触れられたものが多くあります。問題について認識した後、男女の平等や男女の役割分担などについて考えることもひとつの方向性となりうるでしょう。

活動展開例

11 将来設計図—アクティビティから自分の将来、地球の未来を考えよう

STEP-1 問題提起：“どんな職業に就いてみたい?”

- 職業について具体的なイメージをもつ。
- 次のようなアクティビティを行ってみる。

アクティビティ 仕事と将来 (『ユニセフの開発のための教育』P85～86)

新聞の求人欄や求人雑誌を用いて、今どのような職業があるのかを調べる。

その中から、20年前にはなかったと思われる職業は何か、20年後に必要とされる職業はどのようなものか、話し合う。

- ユニセフの統計資料などを活用して世界の実情を認識し、現在世界でどのような仕事が行われているか考えてみる。

STEP-2 体験学習 インタビュー：働いている人に聞いてみよう

- 地域の働いている人や職場訪問で出会った人に各自のテーマに基づいてインタビューを行う。修学旅行などを活用してもよい。

アクティビティ 変化についてのインタビュー (『ユニセフの開発のための教育』P84)

さまざまなよい「変化」をもたらした力について、その変化に関わった人びとにインタビューをする。

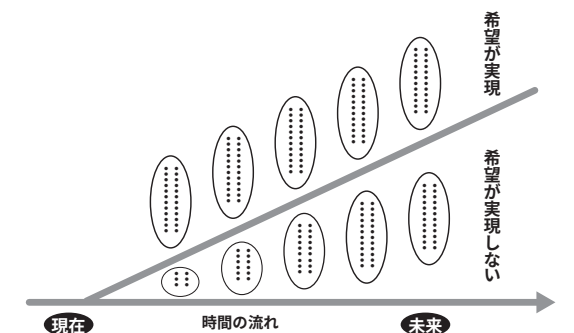
STEP-3 将来設計図をつくろう

- 職業という観点から集めた情報や考え方をもとに、次のようなアクティビティを行い自分の将来設計図をつくってみる。

アクティビティ 危機?それともチャンス?

(『ユニセフの開発のための教育』P95)

自分の将来をテーマに、ひとりひとりの理想を追った人生設計図(タイムライン)を作成する。タイムラインは横にY字型になるように描き、上のラインには将来の希望が現実化していくもの、下のラインには希望が実現しないものを想定して作成する。完成したタイムラインはプレゼンテーションにも活用が可能。



- 将来の地球について、現在よりもよいものになっているとしたら、どのような改善があったからか、その改善のために自分はどのような貢献ができ、またよくなった地球で自分はどのように働いたり、暮らしたりしているか、などについて考えて発表する。上記のアクティビティをこのテーマに応用してもよい。

活動展開例

12 写真から考える世界のできごと—ユニセフの広告から考えよう

STEP-1 問題提起：「実はわたしたち○○○」

- ユニセフの新聞広告を例にとる。解説を見せずにキャッチコピーの全体、または一部分を伏せて、そこに入る言葉を考え、全員で発表しあう。
- 正解を知らせ、その広告が伝えようとしている課題についての導入をはかる。(各種資料、ビデオ等の活用)



STEP-2 個別に追究課題を決め、活動する

- たとえばヨード欠乏症なら、世界の栄養事情や、自分たちの栄養のこと、栄養不良の原因ともたらされる被害について個別追究する。

STEP-3 テーマをもとに発表活動を行う

実践事例

川崎市立川崎総合科学高等学校(神奈川)では、新聞記事や掲載写真を活用した活動を実施しました。

- ① 記事の写真部分のみをコピーして全員に配布し、写真からわかることをできるだけたくさんあげてもらおう。



1997年1月31日 朝日新聞

あがった意見

- 少年の後ろに旗がある。多分国連の旗。
- 何かの撮影中
- イスがあるのに立っている
- 少年がずしそうな格好をしている
- 黒人の少年と黒人のカメラマン
- 撮影場所は崩れた家の中。壁も崩れている
- 少年の顔つきが真剣である。シビアっぽい撮影？

- ② 新聞の記事であることを伝え、グループで写真に見出しと説明文を考える。→発表

あがった見出し例

- 戦争で肉親を失った少年
- ユニセフ募金 活動開始
- 肉親を捜し求めて
- さしのべられる手
- アフリカの少年、母を求めて三千里

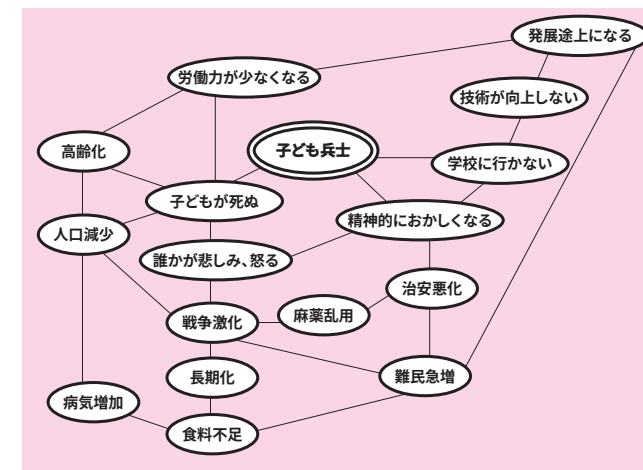
4 ユニセフを活用した活動展開例

- ③ 実際の見出しと説明文を見せ、最初に感じた言葉を表す。

例：あぜん！、自分が情けない、考えが浅かった、かわいそう…

- ④ グループで自分たちの見出しと違って理由を話し合ってみる。

- ⑤ 少年兵についてのビデオを視聴し、そこからわかった問題点をグループで書き出す。→発表



生徒が書き出した例

- ⑥ 出てきた問題点を分類し、タイトルをつける。

例：教育、食糧、病気、家族、地雷…

- ⑦ 各自が個別追究テーマを決め、学習活動を行う。

例：「教育」から「学校に行けない子どもたちの現状」など

- ⑧ 調べたことを発表

発表形式には、ロールプレイング、劇、絵、紙芝居、壁新聞、プリント、OHP など

- ⑨ 活動評価

振り返りシートを用意し、自分の活動と仲間の活動を評価する。

評価の観点には

- テーマと発表内容の整合性
- 調べの深さ
- 調べ方の工夫
- 発表形式
- プレゼンテーションの方法とわかりやすさ
- 質問への応答
- まだわからないことがおさえられているかどうか

などを盛り込んだ。

振り返りの中から「少年兵をなくすにはどうしたらよいか」などの話し合いをもった。

ひとことメモ

写真や記事を選ぶポイント

新聞、写真集、ポスターなどさまざまな資料から活動に活用できる素材を見つけることができます。活動に合わせて以下のようなポイントを考えてみてはいかがでしょうか。

- 1 多くの情報が読み取れる…さまざまなモノがうつっているもの
- 2 発展性がある…そこからさまざまな課題を見つけ出すことができるもの
- 3 意外性がある…固定観念やステレオタイプを打ち破るようなもの
- 4 繰り返し使える…活動の導入としてだけでなく、活動の流れの途中でも使えるようなもの



©UNICEF/Fran Antmann



©UNICEF/Horner